

至急

令和2年4月6日

所沢市医師会 会員の皆様へ

感染症担当理事
赤津

新型コロナウイルス感染症対応について（第12報）

所沢市における新型コロナウイルス感染症の現状が激変中です。所沢市の医療機関にはいつ目の前に患者が来ても不思議でない状況となっています。医療崩壊の兆しも出始めています。できる限りの感染対策の厳守と御協力を
お願い申し上げます。

記

1. 埼玉県における新型コロナウイルス感染症の発生状況について

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0701/covid19/jokyo.html>)

4月4日18時45分現在の資料では156名の発症です。3月22日21時点では54名(3月14日は32例)、3月28日午後8時10分の発表では82名となっていました。この1週間で倍増しています。

2. 所沢市での発生状況について

すでにご報告申し上げましたように3月23日夜に第1例目が報告されました。25日、奥様も罹患され2例目となりました。その後、所沢市では感染事例の報告が急増中で、これまでに11例が報告されています。さらに、報告地がさいたま市の症例の中に所沢市在住の方が含まれています(4月4日さいたま市報告事例)。所沢市はたった1週間で、県内で最も発生数の多い4市の一つとなってしまいました(さいたま市、川口市、春日部市、所沢市)。

市内、明生病院で医療従事者の感染報告事例が出ていますので、所沢市の診療体制に大きな影響が出ると思います。各施設、十分に感染対策に御留意下さい。

3. 患者が後日新型コロナウイルス感染症と判明した場合（市内のケース）

市内で新型コロナウイルス感染症患者を診察した医療機関から情報提供がありましたので御報告致します。

- (1) 概要：花粉症のふれこみで受診された患者様が、後日新型コロナウイルス感染症であることが判明し、診察に従事した市内医療機関の複数名（医師を含む）が濃厚接触者の認定を受け、休業を余儀なくされました。初診日から2週間の自宅待機の要請です。
- (2) 症例：3月24日、当該患者がマスクなしで受付をして（受付はマスク着用）、そのまま診察室で診察。医師は眼鏡装着、マスク着用。26日の来院時は受付で発熱の申告があり、そこでマスクを看護師が手渡したが、受付は濃厚接触とみなされた。28日は別の医師が診察、この際は患者がマスクを着用していたので、（担当した医師は）濃厚接触とはならず。28日、30日は、患者はマスクを着用して来院し、すぐ別室へ誘導しているので、濃厚接触者はゼロ。
- (3) 教訓：医療従事者がマスクを着用していても、（例え無症状であっても）マスクをしていないコロナ感染患者に近距離で接した場合、濃厚接触と判断される可能性があります（個別のケースで判断されるが）。接触日から2週間の自宅待機を要請されます。医療従事者が開業医の場合、実質休業を余儀なくされる可能性が高い。
- (4) 対策：マスク不足の折、難しいかもしれないが、入り口にマスクを置いて来院患者全員にマスクをつけてから医療機関に入ってもらおう。でなければ、受付と患者の距離を2m以上取って、熱があるといえ、マスクを自分で取ってもらおう等の配慮が必要。医療機関の入り口に趣旨がわかるような張り紙が必要（受診者全員へのマスク着用のお願い）。

市内で複数の罹患者が発生した地域の開業医の先生からは受付に透明のビニールシートを準備するとの情報。当院でも受け付けと患者との間にビニールシートを設置できるか計画中（下にすき間を開けて、書類等の授受を行うイメージ）。

4. 感染症指定医療機関である防衛医大感染症内科からの要望（直接聴取）

重症患者の治療と帰国者・接触者外来の機能を同じ施設で実施するのは無理（県内に一か所そのようなところがあるが対応できなくなっている）。防衛医大へ直接受診を促すことを控えて頂きたい。防衛医大は重症者の治療に専念させて頂きたい。重症例は急速に悪化し、重症化時点ですでに報告されている複数の投薬を行っても奏功しない印象を持つとのこと。

診断については、帰国者・接触者外来にお願いしたい。これまでのルートを守って頂きたいとのこと（帰国者・接触者センターに連絡し、必要性が高いと判断された場合は帰国者・接触者外来を伝える方式）。軽症・中等症の入院について、感染症指定医療機関以外の医療機関でも収容する方向で調整している段階にあるとのこと。

5. 所沢市医師会会員からの情報（眼科猪俣先生から）

新型コロナウイルス感染症に罹患した患者38例を検討した中国武漢市の医療機関からの報告（JAMA Ophthalmol, 2020 Mar 31）では12例（31.6%）に結膜炎を示す眼症状（結膜充血、結膜浮腫、流涙、分泌増加）を認めた。論文の記載では眼症状のある患者の重症度は中等症以上であり、4例は中等症、2例は重症、6例は重篤。1例は初期症状に流涙があった。PCRでは鼻咽頭拭い液の陽性は28例（73.7%）、結膜検体陽性は2例（5.2%）。眼症状のある12例のうち、11例は鼻咽頭拭い液のPCRが陽性であり、ここに粘膜検体陽性だった2例も含まれる。

眼症状があること、かつ眼症状のある場合は重症例が多いようですので、御留意下さい。